

中学校区におけるめざす子ども像

- ① 学びの基礎をつくり、自分らしい学びを深める子ども ②他者と協力し、自他の違いを認め、多様性を尊重する子ども ③運動する習慣・意欲・能力を高め、運動に親しむ子ども

令和7年度 重点目標

◎ 本校の教育目標 知徳体、調和のとれた児童の育成

- 重点目標 ○自ら学ぶとともに、学び合い高め合う子（知） ○人とのつながりを大切にし、多様な価値観を認める子（徳） ○未来に向けて、たくましく挑戦する子（体）

学びの現状

昨年度までの3年間、算数科を研究教科として主体的に学び合う子どもたちを育ててきた。その成果として、自分の考えをノートなどに書き、みんなで学び合っ解決しようとする態度が多くみられるようになった。また、「全国学習学力状況調査」「すくすくウォッチ」において、堺市平均を上回っていた。しかし、子どもが自ら「問い」をもち学習に取り組む授業展開にすることに課題もある。そのため、子どもが自ら進んで学び、ともに高め合う授業の実現に取り組んでいくことが必要である。

体力の現状

本校は、児童数が多いにもかかわらず運動場が狭いという現状があり、限られた範囲の中で効率的に児童の運動量を確保していくことが課題である。全職員が、6年間の系統性をふまえた体育の授業の工夫・改善をすすめるとともに、体育の授業と体育的行事(マラソン大会やなわとび月間等)の関連性を意識した体育指導に取り組む。また、休み時間には各学年が活動できる場所を確保し、体力の向上につながる運動の充実を図る。

大項目	中項目	具体目標	評価項目 (取り組み、成果・状態) (●重点とする取り組み)	評価方法・判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況					
								自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	学力向上・授業改善	国語授業を通して、『自ら学びを進められる子ども』を育成するための授業改善	●子どもが自分の問いもち、自ら解決しようとする授業について研究する。	・研究授業時における協議内容 ・アンケート「自分の問いをもち授業に取り組むことができる。」で肯定評価80%以上の結果	・研究授業 ・「学校教育アンケート」	適宜 年度末	児童アンケートでは、主体的に学んでいるかどうかの項目で79%。「話す」の項目では82%。「聞く」の項目では95%の肯定的回答があった。各種学力調査の結果分析については、現在進めており、堺市から提供される結果に関する情報を職員間で共有している。	○	・子どもの「どうして?」「わからない」という問いから課題を設定し、友だちと話し合ったりICTを活用したりするなど、発達段階に応じた手立てを工夫することで課題を解決できるようになってきた。 ・全国学力調査の「話し合いを通して自分の考えを深め、新たな考え方に気づく」項目で肯定的評価が91%で全国平均より約8%高かった。 ・全国学力調査の結果より、国語・算数の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」ともに平均正答率は全国・大阪平均とほぼ同じであった。 ・学力調査の結果等を職員内でも共有し指導改善に取り組んでいる。	○	ICT スキルを身につけることは子どもたちに必要なことであるが、字を丁寧に書くことや、書くことを通して思考力を育成することも小学生に大切である。漢字の学習のように、書くことを通して、言葉の意味や成り立ちを学ぶこともある。また、思考力を伸ばしたり語彙量を増やしたりすることは、話を聴きあえる集団づくりにもつながる。今後、どのようにタブレットを子どもたちに活用させるか工夫をして、バランスよく、書く活動とタブレット活用の推進を図っていただきたい。		
			子どもが話を聴くことで、自分の考えを整理し表現できる授業について研究する。	アンケートで肯定評価80%以上の結果 ・「授業では人の話を聴いている」 ・「自分の考え発表したり書いたりして伝えている」	「学校教育アンケート」	年度末							
			「全国学力調査」「すくすくウォッチ」において、事後指導を各学年で行う。	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」結果の分析を行う。	「全国学力診断テスト」「すくすくウォッチ」	テスト結果後							
ICT活用	一人一台タブレット活用の推進	1日1回はタブレットを起動し、タブレットを使用する。	「1日1回はタブレットを起動する」で肯定評価80%以上	「学校教育アンケート」	年度末	○	児童アンケートでは94%の肯定的回答があった。	○	・発達段階に応じて、授業を中心にタブレットを使用する機会を設けるよう取り組んでいる。 ・それぞれの学年で身につけたいICTスキルを整理し、系統的に指導ができるよう取り組んでいる。	○			
											豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	いじめ防止の取り組み
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	いじめ防止の取り組み	あいさつへの取り組みの充実	アンケート「週に1回は読書をする時間を通して読書をした」で肯定評価85%以上の結果	「学校教育アンケート」	毎学期	読書については、朝の読書タイムと学級の図書時間を中心に取り組んでいるため、読書時間の確保はできているといえるが、意欲面については課題も	○	・全クラスで、道徳の授業を参観授業で1回公開した。また、道徳教育推進担当教員を中心に、学校の実態に応じた授業について研修を行っている。 ・読書について児童アンケートでは91%の肯定的回答があった。図書室では、休み時間の開室や借りたい本の予約を行ったり、児童の委員会活動(図書委員会)で読み聞かせを行ったりして、読書環	○			
			いじめ防止の取り組み	アンケート「自分からすすんであいさつをしている。」で肯定評価85%以上の結果	「学校教育アンケート」	年度末	○						
			いじめ防止の取り組み	代表委員会によるあいさつ運動をおこなう。									

		●にここチェック・いじめ防止アンケートの結果による指導の徹底を図る。 ネットリテラシーの出前教室を実施する。	指導結果のチェックと 100%の問題解決。 4・5・6年生での出前教室の実施	にここチェック・いじめ 防止アンケート	毎月	○	みられる。 挨拶について児童アンケート では92%の肯定的回答があっ た。 ネットリテラシーについて、学 年の実態に応じて指導に取り 組んでいる。	○	境の整備に取り組めた。 ・児童の委員会活動でのあいさつ 運動やPTAからの啓発など、学校 内外であいさつの大切さを意識 できる取組ができた。 ・にここチェックやいじめ防止 アンケートの実施を通して、問題 の早期発見・対応ができるよう取 り組んだ。ネットリテラシーの指 導については、折にふれて学級や 学年で指導をする以外に、高学年 で外部講師による授業を行った。	○	して、あいさつができ ている様子が見てとれ る。学校からは、学校 外でのあいさつも大切 であることを子どもた ちに伝えてほしいとと もに、学校・家庭・地 域であいさつの啓発に 取り組んでいきたい。
体 力 の 向 上	「小学校体育指導の手引」 に基づいた体育指導の実 践 安全と運動量を確保した 体育指導の実践	意図的・計画的に指導を行い体育指導の充 実を図る。	アンケート「運動することが好き だ」で肯定評価80%以上の結果。	「学校教育アンケート」	年度末	○	児童アンケートでは86%の肯 定的回答があった。 2学期はマラソン大会に向け て体力向上の取組を行った。	○	・各学年で「小学校体育指導 の手引き」に基づいて指導を 行うことで系統立てた実技指 導ができ、個々の技能が高ま った。 ・全校で体力づくりへの意識 向上を目ざして、児童の委員 会活動を活用（体育委員会） して、全校児童対象の休み時 間を使った体を動かすプログ ラムを実施した。	○	校区にある公園で遊ん でいる子どもたちをよ く見る。遊びを通して 体力づくりにもなって いると思う。熱中症予 防対策を図りながら、 授業だけでなく学校行 事や休み時間でも体力 づくりに関わる活動を 今後も継続していただ きたい。
		●安全と運動量を十分に確保した体育指導 の充実を図る。 ●年間を通して駆け足などの取組を行い、基礎体力の向上を図る。	アンケート「運動することが好き だ」で肯定評価80%以上の結果。	「学校教育アンケート」	年度末	○					
学 校 力 の 向 上	信頼される教職員・学校 家庭・地域とともに子ども を支える学校づくりの推 進 学校情報の積極的な発信	地域人材を活用し、家庭・地域とともに子 どもを支える学校づくりを進める。	家庭・地域とともに取組を進め る。	実践報告	年度末	○	学年・学校行事を家庭・地域 の方々に協力いただきながら取 組んでいる。	○	学年の学習内容に応じて、中 学校と交流したり、地域の施 設を見学させていただくなど、 地域理解を深める取組を行 った。	○	今年度行った自治会館 の見学のほか、だんじ り小屋やだんじり保存 会、浜寺音頭など地域 の素材がたくさんあ る。見学など協力でき ることがあれば学校と 検討したい。
		学校通信やホームページを活用。学校の取 り組みや授業の様子を発信する。	学校HPの毎日の更新をめざす。	実践報告	毎学期	○	学校ホームページにて発信を 継続している。	○	学校ホームページで学校の様 子・取組をお伝えしてきた。 今後も、たくさんの方に見て いただける発信を心掛けた い。	○	

**校長より（年度末）**

「学び」については、本年度より国語科を研究教科として「自ら学びを進められる子ども」の育成に向け取り組んだ。「なぜだろう」「知りたい」という「問い」を持たせることを大切にする授業に取り組むことで、子どもたちは課題に向き合い自ら学びを進め、グループ学習を通して互いに学び合い、自分の思いや考えを深める力が養われてきた。

「体力」については、6年間の系統性をふまえた体育の授業をすすめるとともに、マラソン大会やなわとび月間と授業を関連させて体育指導に取り組むことで、子どもたちが進んで運動に向き合えるよう努めた。休み所間は、各学年が活動できる場所を確保するだけでなく、体育委員会が楽しく体を動かすレクリエーションを企画し、多くの子どもたちが参加した。

**学校関係者評価者から（年度末）**

あいさつの推進のように、学校の教育活動で取り組んでいることが地域づくりや地域の活性化に繋がる部分が多い。そういう点からも地域から協力できることがあれば一緒に考えていきたい。